

## 令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

|      |    |      |    |      |    |      |
|------|----|------|----|------|----|------|
| 第2学年 | 国語 | 135人 | 社会 | 135人 | 数学 | 135人 |
|      | 理科 | 135人 | 英語 | 135人 |    |      |

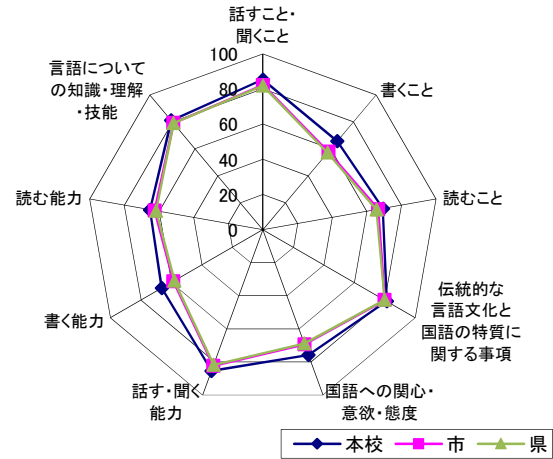
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 85.4 | 82.3 | 81.8 |
|     | 書くこと                 | 65.7 | 58.0 | 57.2 |
|     | 読むこと                 | 69.3 | 66.6 | 65.6 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 81.3 | 80.0 | 79.9 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 75.8 | 69.4 | 68.8 |
|     | 話す・聞く能力              | 85.4 | 82.3 | 81.8 |
|     | 書く能力                 | 66.4 | 58.8 | 58.1 |
|     | 読む能力                 | 65.2 | 62.5 | 61.7 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 81.1 | 79.2 | 79.1 |



★指導の工夫と改善

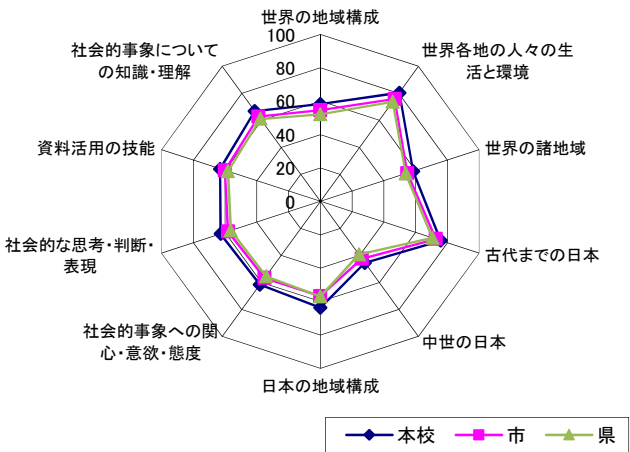
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                             | 今後の指導の重点                                                                                                                                         |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | ○話すこと聞くことについては、県よりも3.6ポイント、市よりも3.1ポイント上回っている。<br>●相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめる設問においては、他の設問より正答率がやや低い。                                                  | ・日頃の授業の中で、話すこと・聞くことを意識して活動させる。また、相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる活動を取り入れるなど、単に「聞く」だけにとどまらず、聞いたことをもとに自分の意見を持つことにつなげさせたい。                                   |
| 書くこと                 | ○書くことについては、県よりも8.5ポイント、市よりも7.7ポイントと大きく上回っており、条件に合わせて作文を書くことができる力がついているといえる。<br>●伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書くことができる設問については正答率が約3割と低く、無解答の割合も約4割と高かった。 | ・無解答の生徒については、書くことへの苦手意識があると思われるので、短作文など授業の中で自分の考えを書く機会を増やすことで、書くことに慣れさせたい。<br>・伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書く力を高めるために、意見文などの活動を取り入れ、論理的な文章の書き方を指導する。 |
| 読むこと                 | ○読むことについては、県よりも3.7ポイント、市よりも2.7ポイント上回っている。<br>●説明文では文章の構成や展開を捉える設問、文学作品については登場人物の心情の変化を捉える設問が、県や市の平均を超えてはいるものの正答率が約5割にとどまった。                        | ・説明文においては授業の中で、文章の構成や展開を捉えるときのポイントを指導する。<br>・文学作品については登場人物の心情の変化を捉える際に注目すべき表現を取り上げ、考えることで、読み取る力を伸ばしたい。                                           |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、県よりも2.0ポイント、市よりも1.9ポイント上回っている。漢字については読み、書きともにほぼすべての設問で正答率が8割を超えている。<br>●文節の関係について理解しているかについての設問の正答率が、他の設問よりやや低い。        | ・文法については、1年時の復習を行いながら授業を進めるようにし、文節の関係を含め既習事項の定着を図る。<br>・漢字の学習については、学習漢字ノートを活用し漢字テストを行う取り組みを継続しながら、文章の中で正しく積極的に使えるよう指導する。                         |
|                      |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                  |

宇都宮市立一条中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分              | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 世界の地域構成         | 58.3 | 54.7 | 52.3 |
|     | 世界各地の人々の生活と環境   | 80.5 | 75.9 | 73.7 |
|     | 世界の諸地域          | 58.5 | 54.8 | 53.9 |
|     | 古代までの日本         | 75.8 | 72.7 | 70.5 |
|     | 中世の日本           | 45.4 | 42.4 | 39.3 |
|     | 日本の地域構成         | 63.7 | 56.7 | 56.9 |
| 観点  | 社会的事象への関心・意欲・態度 | 61.6 | 56.7 | 55.3 |
|     | 社会的な思考・判断・表現    | 62.8 | 58.1 | 56.4 |
|     | 資料活用技能          | 63.1 | 60.1 | 58.2 |
|     | 社会的事象についての知識・理解 | 66.9 | 62.9 | 61.1 |



★指導の工夫と改善

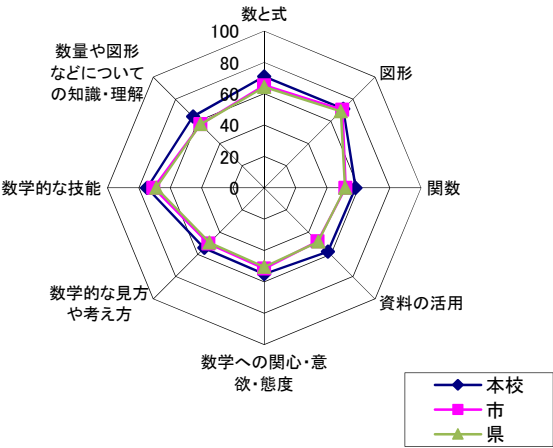
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分         | 本年度の状況                                                                                                                                              | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 世界の地域構成       | ○領域全体では、市の平均を3.6ポイント上回っている。問題別では、正しい図法を選択し判断する問題で市の平均を12.0ポイント上回っており、資料活用技能を高める授業実践の成果であると考えられる。<br>●正しい図法を選択し判断する問題は、市の平均は上回ったが正答率は低い。             | ・今後も、様々な地図や地球儀を用いた授業を展開することで資料活用技能を高める。<br>・様々な図法に関する知識の理解を深めた上で、それらを実際にどのように読み取ることができるのか、などの思考力・判断力を育む授業を実践する。                                                         |
| 世界各地の人々の生活と環境 | ○領域全体では、市の平均を4.6ポイント上回っている。問題別では、乾燥帯に関する知識・理解を問う問題で85.2%と高い正答率であり、基本的な語句の定着がみられる。<br>●高山気候の雨温図を読み取る問題の正答率が、市の平均と同様に低い。                              | ・今後も、世界各地の人々の生活や環境に関しては、印象に残るような資料を用いながら、社会的な知識・理解を深める。<br>・校内の定期テストなどにおいても、雨温図の読み取りを苦手とする生徒が多い印象を受けるため、重点的に指導を行い、資料活用技能を高める。                                           |
| 世界の諸地域        | ○領域全体では、市の平均を3.7ポイント上回っている。問題別では、ヨーロッパの経済格差について資料をもとに判断する問題で84.4%と高い正答率であり、資料活用技能を高める授業実践の成果であると考えられる。<br>●北アメリカ州の地形を判断する問題の正答率が市の平均を1.4ポイント下回っている。 | ・今後も、世界各地の地図や写真をICTなどの活用によって提示した授業を展開することで資料活用技能を高めるとともに、今回得られた成果と課題を、今後の「日本の諸地域」の学習に生かす。<br>・世界各地の自然環境の名称は理解しているが、それを多面的・多角的に理解することができていないことが考えられるため、多様な資料を用いた授業実践を行う。 |
| 古代までの日本       | ○領域全体では、市の平均を3.1ポイント上回っている。ほとんどの設問で正答率が8割を超えている。特に古代の戸籍を読み取る問題では、市の平均を11.5ポイント上回り、古代の土地制度をよく理解できていると考えられる。<br>●国風文化の知識を問う問題の正答率が市の平均と同様に低い。         | ・今後も、当時の歴史資料を教材として扱うことで、生徒の興味・関心を惹き、歴史的事象の理解をより深めさせる。<br>・文化の学習は、知識習得型の授業に終始してしまうことが考えられる。知識を習得した上で、史料の読み取りや絵図の読み取りなどを行うことで、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにする。                  |
| 中世の日本         | ○領域全体では、市の平均を3.0ポイント上回っている。問題別では、御恩と奉公についてや戦国大名による支配について、資料をもとに判断する問題で県や市の平均を上回っている。<br>●戦国大名による支配について判断する問題を除いて、本領域の正答率は5割を下回っている。                 | ・今後も、当時の歴史資料を教材として扱うことで、生徒が歴史的事象について主体的に考え、判断する授業を実践する。<br>・「古代までの日本」よりも「中世の日本」の正答率が約30ポイント低い。各時代の社会制度や文化を比較する活動を行うことで、各時代の特徴を理解できるようにする。                               |
| 日本の地域構成       | 今年度から新たに実施されている領域である。<br>○領域全体では、市の平均を7.0ポイントと特に上回っている。問題別では、排他的経済水域に関する諸情報正誤を判断する問題で市の平均を3.4ポイント上回っている。<br>●日本の地域構成に関する知識を問う問題の正答率が軒並み低い。          | ・本領域は、「日本の諸地域」に入る前の学習として、基礎的な知識を習得するための重要な領域である。日本の諸地域に関して調べる上で必要な知識を用いて、社会的な諸問題について思考・判断する力を身に付けるため、時事的な資料を提示したり、様々な地図を効果的に活用したりする授業を実践する。                             |

宇都宮市立一条中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                | 本年度  |      |      |
|-----|-------------------|------|------|------|
|     |                   | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と式               | 71.1 | 65.4 | 64.4 |
|     | 図形                | 71.2 | 70.5 | 69.0 |
|     | 関数                | 58.2 | 51.9 | 51.5 |
|     | 資料の活用             | 57.4 | 48.1 | 48.6 |
| 観点  | 数学への関心・意欲・態度      | 54.9 | 51.5 | 50.4 |
|     | 数学的な見方や考え方        | 54.1 | 50.2 | 49.4 |
|     | 数学的な技能            | 74.7 | 70.6 | 68.9 |
|     | 数量や図形などについての知識・理解 | 64.3 | 57.5 | 57.4 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

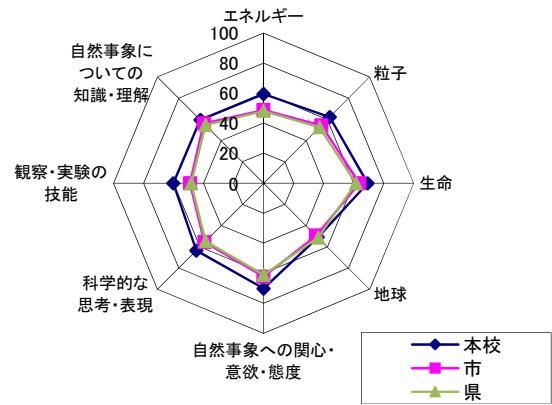
| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                    | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                       |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と式   | 本校の平均正答率は県の平均、市の平均よりも大きく上回っている。<br>○数量の間の関係を不等式に表す問題や、1次方程式のの解の意味を問う問題では、どちらも県の正答率を10ポイント以上上回っている<br>●移行を必要としない1次方程式を解く問題の正答率が91.1%だったので、等式の性質や方程式の基本への理解が低い生徒への対応が必要である。 | ・多くの生徒が文字式の基本や、方程式の解き方などをよく理解していることが、数学的な技能の正答率74.7%という結果からも読み取れる。今後は理解が低い生徒に対して、計算の構造を改めて解説することで、着実に技能を高められるようにする。技能の定着が見られる生徒については、正確性やスピードを高めるために授業の中でテスト形式の課題を出すなど意欲を高めながら実践できる活動を充実させていく。 |
| 図形    | 本校の平均正答率は県、市の平均と同程度である。<br>○おうぎ形の面積を求める問題では、県の正答率を5.5ポイント上回っている。<br>●回転移動の意味を問う問題についてのみ県の平均正答率を下回っている。この問題のように概念を問う問題についての習熟を図る必要がある。                                     | ・公式に当てはめて問題を解くことは得意であるが、説明をする問題や概念について問う問題については苦手意識が付きやすいので、授業の中で周りの生徒に考えを説明させる活動を行うことで、数学的な表現力を磨いていく。また、習熟の低い生徒については改めて「ねじれの位置」などのキーワードを抑えていき、図形の性質についての知識・技能を高めていく。                          |
| 関数    | 本校の平均正答率は県の平均、市の平均よりも大きく上回っている。<br>○関数についての理解を問う問題では、県の正答率を18.2ポイント上回っている。<br>●平均正答率が、数と式・図形の領域と比べて58.2%と低い。                                                              | ・関数に対する苦手意識をもつ生徒が多く見受けられるので、表・式・グラフの関連性を改めて確認するとともに、問題文の中で鍵となる言葉を見つけ出す練習をしていく。問題から読み解くことで関数をもっと身近に感じられるような声掛けを授業の中で意識して移動していく。                                                                 |
| 資料の活用 | 本校の平均正答率は県の平均、市の平均よりも大きく上回っている。<br>○累積度数についての理解を図る問題では、県の正答率を24.3ポイント上回っている。<br>●平均正答率が、数と式・図形の領域と比べて57.4%と低い。                                                            | ・累積度数や相対度数、資料の範囲など重要語句とその意味について半数の生徒は理解している様子が見られるが、苦手意識を持つ生徒については、授業の中で改めて、それぞれの語句の関連性や度数分布表、ヒストグラムの中での表れ方などに着目させながらしっかりと復習していくことで技能の定着を図っていく。                                                |
|       |                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                |



宇都宮市立一条中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | エネルギー          | 59.5 | 48.8 | 48.1 |
|     | 粒子             | 62.3 | 54.4 | 52.6 |
|     | 生命             | 69.3 | 63.7 | 61.5 |
|     | 地球             | 50.9 | 49.4 | 51.4 |
| 観点  | 自然事象への関心・意欲・態度 | 70.2 | 62.3 | 61.1 |
|     | 科学的な思考・表現      | 63.4 | 55.7 | 54.8 |
|     | 観察・実験の技能       | 60.1 | 49.0 | 48.3 |
|     | 自然事象についての知識・理解 | 59.6 | 56.3 | 54.8 |



★指導の工夫と改善

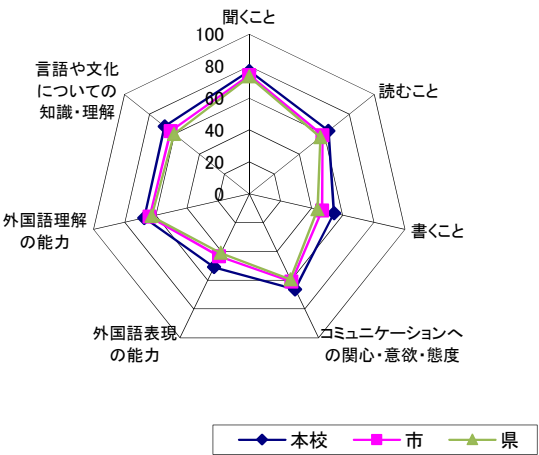
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| エネルギー | <p>○領域全体では、市と県の平均を約11ポイント上回っている。設問別では、光の性質に関する問題で、市と県の平均を約17ポイント上回り、正答率が70%程度である。また、音の伝わり方に関する問題で、市と県の平均を約11ポイント上回り、正答率が80%を超えている。</p> <p>●設問別で、重力の大きさとばねののびの関係をグラフに表す問題で、正答率が35.6%と低かった。また、より大きい重力の値まではかされるばねばかりを指摘する問題で、正答率が43.0%と低く、不正解の生徒が選んだ選択肢がばらついている。力の性質に関して、課題の残る結果である。</p> | <p>・力の大きさとばねののびの関係を、グラフに表すことを苦手とする生徒が多い。グラフに表す活動を増やすことで、生徒の習熟度の向上を図る。</p> <p>・複数の実験結果から、情報を整理・選択して答えを導き出すような、思考・判断力を問われる問題を苦手とする生徒が多い。授業や練習問題を通して、まずは答えとして何を求めるのかを明確にし、そのために実験結果をどう見るといった、思考の筋道を立てる経験を積むことで、科学的な思考のスキル向上を図る。</p>                                                                                        |
| 粒子    | <p>○領域全体では、市と県の平均を8～10ポイント上回っている。設問別では、二酸化炭素を水上置換法で集めても、正確な体積を調べることができない理由を考える問題で、市と県の平均を約16ポイント上回っている。また、質量パーセント濃度を求める問題で、県の平均を約15ポイント上回っている。</p> <p>●設問別で、グラフから水溶液を冷やしていったときの様子を考える問題で、正答率が41.5%と低かった。また、溶液の様子を粒子モデルを使って考える問題で、正答率は市と県の平均と同程度だったものの、31.1%の生徒が同じ誤答を選択している。</p>       | <p>・溶解度曲線のグラフの見方や活用の仕方が身についておらず、再結晶で析出するかを判断できない生徒が多い。誤答を選択した生徒の多くは、溶解度が大きいほど再結晶で析出するのが早いという間違った理解をしていると考えられる。再結晶の量を求める計算の際に、溶解度曲線のグラフに溶けている量と再結晶する量を描きこみながら説明し、練習問題に繰り返し取り組ませることで、定着を図る。</p> <p>・水に対して、物質がとけているのか、混ざっているのかの違いが明確になっておらず、混同している生徒が多い。普段は意識せず使っている言葉でも、科学的に大きな違いがあることを理解させ、粒子モデルと合わせて正しく言葉の意味を理解させる。</p> |
| 生命    | <p>○領域全体では、市と県の平均を6～8ポイント上回っている。設問別では、根のようすを推測し、図に表す問題で、県の平均を16.9ポイント上回っている。また、葉のようすから、単子葉類に分類することができることを指摘する問題で、県の平均を12.2ポイント上回り、正答率が88.9%になるなど、植物の分類については特に良好である。</p> <p>●設問別で、動物の分類については市と県の平均と同程度であった。軟体動物を指摘する問題では、正答率が36.3%と低く、47.4%の生徒が同じ誤答を選択している。</p>                        | <p>・問題で、タコやイカが軟体動物の例に上がっていたことから、見た目や体が柔らかいといった特徴が似ているクラゲを選択する生徒が多かったと考えられる。印象や見た目といった理由ではなく、正しい知識に基づいて選択できるように、分類に必要な情報を整理させる。</p> <p>・授業を通して、様々な動物や植物について扱うことで、生徒の興味関心を高めるとともに、多様な生物についての基礎知識の定着を図る。</p>                                                                                                               |
| 地球    | <p>○設問別で、火山のでき方を説明する問題で、市と県の平均を約6.5ポイント上回り、正答率が70%程度である。また、サンゴが示相化石であることを理解し、堆積した当時の環境を推定する問題で、市の平均を5.3ポイント上回っている。</p> <p>●領域全体では、市の平均と同程度だが、県の平均を若干下回った。設問別では、火山岩のつくりに見られる小さな鉱物の部分を「石基」と答える問題で、正答率が25.2%と低く、市と県の平均を10ポイント以上下回った。火山に関して、課題の残る結果である。</p>                               | <p>・火山に関する問題について、基礎的な知識の定着が不十分であることが考えられる。火成岩の実物を手に取って観察したり、写真や動画で視覚的に捉えたりすることで、理解を深めるとともに、混同しやすいポイントを丁寧に指導することで、知識を整理させ、定着度の向上を図る。</p>                                                                                                                                                                                 |

宇都宮市立一条中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                  | 本年度  |      |      |
|-----|---------------------|------|------|------|
|     |                     | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 聞くこと                | 77.0 | 74.4 | 73.5 |
|     | 読むこと                | 63.3 | 58.7 | 56.9 |
|     | 書くこと                | 54.4 | 46.8 | 43.9 |
| 観点  | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 66.3 | 61.0 | 59.4 |
|     | 外国語表現の能力            | 50.9 | 43.5 | 41.1 |
|     | 外国語理解の能力            | 67.4 | 64.0 | 62.8 |
|     | 言語や文化についての知識・理解     | 67.8 | 62.9 | 60.2 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                             | 今後の指導の重点                                                                                                                                           |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 聞くこと  | ○本校の平均値は県・市の平均値を3～4ポイント上回っている。設問別では、絵を適切に表している英文を適切に聞き取ることができ、その正答率は95.5～97.7%だった。<br>●英文を聞き取り、概要をつかむことはできるが、要点を正確に聞き取ることに於いて、難しさを感じる生徒が多い。                                        | ・今後も英語を聞き取る活動を継続していく。また、英語独特の発音に慣れさせるために、教科書の音読方法を工夫したり、教師からの発話を充実させたりする。<br>・聞き取るだけでなく、より自然なやり取りを身につけるため、生徒からの積極的な発話を促したり、リアクションのバリエーションを増やしたりする。 |
| 読むこと  | ○市の平均値より約5ポイント、県の平均値より約7ポイント上回っている。設問別では、語彙の知識・理解に関する問題の正答率が高い。<br>●長文の読み取りにおいて、流れや資料からの判断を要する問題に課題が見られる。                                                                          | ・教科書を活用し、素早く正確に内容を理解できるよう、日々指導していく。<br>・代名詞が何を指すものかなどを明確にしながら読むことで、流れや状況への理解を深める訓練をする。                                                             |
| 書くこと  | ○市の平均値より約8ポイント、県の平均値より約11ポイント上回っている。設問別では、場面に応じた英作文が特に正答率が高い。<br>○自分の持つ知識を活用して英文を作ろうとする意欲が高く、解答率が高い。<br>●テーマに沿った自由英作文を不得意とする生徒が多い。また、助動詞や前置詞などを正しく使えていない点や単語のスペルミスが、軽微な誤りにつながっている。 | ・正しく単語を書く力を強化するために、新出単語に関する活動を強化したり、定期的に単語テストを行ったりする。<br>・自分の状況や意見を書いて表現する機会を増やし、助動詞等の使い方をその都度個別に助言する。                                             |
|       |                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                    |

## 宇都宮市立一条中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている」の質問に対する肯定割合は、57.8ポイントで、市の平均より8.5ポイント、県の平均より13ポイント高い。また、「家で、学校の授業の復習をしている」の質問に対する本校の肯定割合は、80.7ポイントで市の平均より8.5ポイント、県の平均より10.6ポイント高い。家庭学習の内容について考えさせたり、計画表を作成することにより、計画的に学習することの大切さを指導したりしたことにより、家庭で学習する習慣が身についてきたと考えられるので、今後も継続していきたい。

○授業の中で、目標が示されており、自分の考えを発表したり、話し合う活動をよく行っている。振り返り活動もよく行っており、それに伴い自分の考えを深めたり、広げたりすることができているという肯定割合が市や県より多い結果となっている。本時の目標を明確化することで、分かりやすい授業を心がけていきたい。「毎日の生活が充実していると感じている」の質問に対する本校の肯定割合は91.4ポイントで、県の平均より3.3ポイント、市の平均より1.5ポイント高い。今後も様々な場面で適切な支援をすることで、継続させたい。

●「クラスは発言しやすい雰囲気である」の質問に対する肯定割合は市の平均より3.4ポイント、県の平均より1.6ポイント下回っている。「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的割合は、97ポイントと高いが、その反面「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問に対する肯定割合は49.6ポイントと低いので、今後もさらに対話的な活動で自分の意見を言ったり、周りの意見を聞いて考えたりする場面を増やし、自信をもって自分の意見を発表できる力をつけさせることや誰もが自分の意見を言いやすいクラスの雰囲気づくりを行っていきたい。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」の質問に対する肯定割合は、85.9ポイントで、市の平均より4.8ポイント、県の平均より8.3ポイント高い。また、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の質問に対する肯定割合は、74.1ポイントで、市の平均と同じ、県の平均より2.3ポイント高い。生徒とのコミュニケーションを多くとり、質問しやすい雰囲気作りを今後も継続して行っていきたい。

●「将来の夢や目標を持っている」の質問に対する肯定割合は、70.4ポイントで、市の平均より1.8ポイント、県の平均より1.9ポイント低い。その反面、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」や、「自分も持っている能力を十分に発揮したい」の質問に対する肯定割合は高く、家の人と将来のことについてや学習のことについて話すことがあるという肯定割合も高い。これから、社会体験学習や進路指導などにおいて、より自分の将来について考えるきっかけを与え、じっくり考える時間を確保していきたい。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組            | 取組の具体的な内容                                                                                    | 取組に関わる調査結果                                                                                                                          |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習習慣を確立させるための工夫   | 家庭学習ノートを用いた自主学習を毎日行い、提出するように指導している。<br>定期テスト2週間前を「家庭学習強化週間」として計画表等を配付し学習に対する意識を高めさせるようにしている。 | 「家で計画を立てて勉強している」の肯定割合は71.8である。「宿題をしている」に対し「はい」と回答した生徒は91.9であり肯定割合も98.6と高い。また、「宿題の他に自分で考えた勉強をしている」肯定割合は67.4であり市や県を5.5・8.6ポイント上回っている。 |
| 思考力・判断力・表現力を育てる工夫 | 基礎・基本の繰り返し指導や小テストを行う。<br>伝え合う力の育成に向けての学習活動や形態の工夫をする。                                         | 「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定割合は94.8である。「話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は83.7であり市や県を上回っているものの、そのうち「はい」と回答している割合は37.8で市や県を下回っている。           |
| 学習意欲を育てるための工夫     | 授業のねらいを明確にし、授業の最後にまとめ・振り返りを充実させた授業づくりを行う。                                                    | 「授業の中では目標が示されている」の肯定割合は98.5、「学習したことを振り返る活動をよく行っている」は88.2、「学習の目標とまとめを書いている」95.6と市や県を2～8ポイント上回っている。                                   |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                                                                                         | 重点的な取組                                                                          | 取組の具体的な内容                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定割合は91.1で市や県を5ポイント上回っている。しかし、自ら進んで参加している「はい」の割合が「どちらかといえば、はい」を下回っている。また、自分の考えを文章にまとめて書くことは難しいと4割程度の生徒が感じている。 | ○話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習の工夫～ものごとをいろいろな視点や立場から考える力をはぐくむ～<br>○根拠をもとに考えを説明する力をはぐくむ | 一条地域学校園(学習部会学力向上分科会)の重点目標にもなっているので、各教科において工夫した実践を行う。<br>・伝え合う力の育成に向けて学び合いの場の設定<br>・多様な思考や表現を生み出す学習活動の工夫 |